埋文にいがた
No. 80
2012. 9. 28
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

平成24年度発掘調査遺跡の紹介

山口野中遺跡

（阿賀野市大字月崎地内）

山口野中遺跡は、阿賀野川右岸の自然堤防上に立地し、標高は6.4～6.8mです。国道49号阿賀野バイパスの建設工事に伴い、平成24年４月から8,600㎡を対象に発掘調査を行っています。これまでの調査で、縄文時代・中世（鎌倉時代後半から室町時代）の遺跡が見つかっていますが、今年度は現代の水田直下で確認した中世面の調査を実施しました。

五頭山から阿賀野市内を望む（赤丸が遺跡）

中世面では、掘立柱建物・井戸・土坑・溝などの遺構を検出しました。調査区南側では掘立柱建物・井戸が集中し、居住域を形成しています。これらは、さらに調査区の外側へ広がることが予想されることから、今回は集落の縁辺部を調査したものと考えます。

３棟の掘立柱建物は、いずれも北北東－南南西方向に長軸をもっています。最大のものは廂を持つ建物で、長さは約10m（５間×２間）です。井戸は２基見つかっています。上端の直径は約４mと約２mで、ともに一辺約80cmの正方形の井戸側が据えられています。周囲が大きく見えますが、造る際に穴を広く掘り井戸側を地上部まで組み上げ、周囲を再び埋めたためです。写真の井戸側は残った部分で、板材を縦に並べ、内側は桟木と隅柱によって支えられています。この中からは、青磁・珠洲焼・鉄釘や鉄滓、多量の木材のほか、焼けた礫・種子なども出土しています。

居住域以外には多数の溝がつくられており、生産域の可能性が考えられます。溝からは、珠洲焼などが少量出土しています。この生産域と居住域は分布が異なることから、計画的な土地開発の状況がうかがわれます。

遺跡付近には、村前東Ａ遺跡・柄目木遺跡・山口遺跡・境塚遺跡など同時代の遺跡が存在しており、今後はこれらとの関連を踏まえて、遺跡の性格を明らかにしていきたいと考えています。

（㈱帆苅組　村上章久）

生産域で検出された溝

井戸側が据えられた井戸

六反田南遺跡

（糸魚川市大字大和川字六反田地内）

六反田南遺跡は、海川河口近くの右岸、標高約６ｍの沖積地に立地しています。発掘調査は、国道８号糸魚川東バイパス建設に伴って平成18年度から継続して行っています。時代は縄文時代中期から近世まで断続的に続き、縄文時代中期、古墳時代前期、古代に集落が営まれています。今年度は、２か所の調査区（KC２区･市道２区）の発掘調査を４月から実施しています。今回は、これまでに調査が終わった上層（古墳時代・古代）の調査結果を報告します。

KC２区（手前）・市道２区　調査区全景

KC２区では、調査区の大半を占める自然流路とそれに合流する溝、多数のピットなどを検出しました。自然流路は古墳時代から古代の時期で、南西から北東へ調査区を斜めに切るように延びています。幅15m、深さ1.8mで、下層である縄文時代の包含層まで達しており、縄文時代の包含層はこれによって破壊されていました。

流路内からは、多くの遺物が出土しています。特に木製品の出土量は多く、呪符木簡・曲物・下駄・刀子の鞘・建物部材など色んなものが見つかりました。中には、加工痕のある長さ３ｍもの板材もあります。この自然流路は平成18年度の調査で検出されており、今回はその続きになります。

市道２区では、古墳時代前期の集落が営まれており、平地建物・掘立柱建物・土坑・溝・多数のピットなどを検出しました。SB7231・7232は、２棟が並列している平地建物です。平地建物では、四角形に巡る壁溝と呼んでいる溝と、溝の内側に屋根を支える柱穴が見つかりました。溝の中から土師器の器台、壺や甕などの破片が多数出土しました。当時の人々が廃棄したものと考えられます。

平地建物　壁溝内の遺物出土状況

今年の調査及び昨年度までの調査から、六反田南遺跡の古墳時代集落の様相がかなり明らかになってきました。今後は、どのような性格の集落だったのか検討していく予定です。　（飯坂盛泰・㈱吉田建設　今井昭俊）

自然流路　遺物出土状況

古墳時代前期の平地建物

平成24年度整理作業遺跡の紹介

大武遺跡

（長岡市島崎字大武）

大武遺跡は、新潟県の中央部海岸寄り、島崎川左岸の丘陵裾付近に位置します。国道116号和島バイパスの建設に伴い、平成６年度から平成９年度の４年間、発掘調査を実施しました。調査の結果、縄文時代以前に形成された谷の中から、縄文時代前期から室町時代の土器・石器・木器が層位的に出土し、古墳時代前期から室町時代の水田・井戸・土坑などが検出されました。遺物は縄文時代前期・弥生時代中期・古墳時代前期のものが特に多く出土しています。平成23年度から本格的な整理作業を行っており、平成24年度は石器の実測、土器の接合・復元・実測などを実施し、平成25年度に発掘調査報告書を刊行する予定です。

『埋文にいがた』76号では、各時代の主な遺物を紹介しましたが、今回は、弥生時代中期（今から約2,100年前）の土器を紹介します。１・２は平成８年の調査時に撮影した写真で、弥生土器が出土した様子です。調査区南側から20個体以上の完全な形に近い土器が潰れたような状況で、集中して出土しました。

３はこれらの土器の一部を復元したもので、水や食べ物を貯めておくための壺、煮炊きをするための甕などがあります。文様がない土器が大半ですが、口から肩にかけて凸帯を貼り付け、櫛状の工具で文様をつけた土器もあります（４）。これらは阿賀野川以南の新潟県から富山・石川・福井県などに分布する土器です。このほか少量ですが、東北地方南部や長野県に特徴的な土器も出土しています。５は縄文地に平行する３～４本の細い沈線が描かれた東北南部に特徴的な土器、６は太い線で直線や鋸歯状の模様を描く長野県に特徴的な土器です。

（春日　真実）

弥生土器が出土した様子（１・２）

口から肩にかけて模様のある弥生土器（４）と
東北南部に特徴的な弥生土器（５）

復元された弥生土器

長野県に特徴的な弥生土器

越後国域確定1300年

新潟県のかたちを求めて

越後国域確定1300年

新潟県埋蔵文化財センターのエントランスにて、越後国域確定1300年記念事業「遺跡が語る古代のにいがた」と題して、平成25年３月31日まで企画展を開催しています。展示では古墳時代から平安時代にかけての遺跡・遺物を通して、越後国域が確定した頃の社会の変化を概観します。以下に、一部展示遺跡を紹介します。

■黒田古墳群　調査原因：上信越自動車道建設（平成８・９年度）

所在地：上越市大字黒田字田ノ入

南葉山山麓の丘陵上に立地し、円墳23基で構成される古墳時代中期（５世紀後半）の古墳群です。２号墳主体部から鉄製の刀・剣・斧・鑿などのほか、臼玉・竪櫛などが出土しました。墳丘をもたない木棺墓からは、県内初例となる蛇行剣をはじめ、鑷子状鉄製品・環状鉄製品が出土したほか、墓壙近くで須恵器杯が出土しました。

古墳の形状や副葬品は、被葬者の政治的な立場を示すと考えられています。円墳は当時北陸北東部でも造られていました。副葬品の鉄製農耕具は信濃、須恵器・蛇行剣・鑷子状鉄製品は政治の中心地であった畿内とのつながりを示します。これらのことから、後の北陸道や東山道（信濃）を媒介とする畿内勢力とのつながりが見えてきます。

黒田古墳群

■余川中道遺跡　調査原因：国道17号六日町バイパス建設（平成15年度）

所在地：南魚沼市大字余川字中道

六日町盆地の北部、魚野川左岸の庄之又川が形成した扇状地に立地します。標高は約175mです。

古墳時代中期～後期初頭（５世紀～６世紀初頭）の竪穴住居・水田のほか、川辺の祭祀の様子が明らかになりました。水田は今日の「棚田」と同じ構造です。洪水で一気に埋没したため、当時の姿がよく保たれていました。川や水路の脇で見つかった意図的に並べ置かれた土器や石製模造品は、「水」に対して特別な祈りを捧げた祭祀関連のものではないかと考えています。遺跡の西方約１km圏内には、遺跡とほぼ同時期の蟻子山古墳群・飯綱山古墳群があります。古墳を造った人々の水田・集落・古墳をセットで確認できる、県内でも数少ない調査例です。

余川中道遺跡　水田（まだら模様は当時の足跡）

■荒町南新田遺跡　調査原因：北陸新幹線建設（平成20年度）

所在地：上越市大字荒町字南新田

高田平野の西縁部、青田川の自然堤防上に立地します。標高は約18mです。北側に北新田遺跡が隣接し、弥生時代後期から室町時代にかけての集落の変遷が分かります。

荒町南新田遺跡
竪穴建物のカマド周辺遺物出土状況

7世紀前半頃、北新田遺跡から荒町南新田遺跡にかけて大規模な集落が営まれていました。竪穴住居・掘立柱建物があり、竪穴住居の東壁には煮炊きをするカマドがあります。カマドは石や円筒形土製品を芯材として土を盛り上げて造られています。煙道は住居の外側につながっています。土器なども多数出土しており、生活の様子を知ることが出来ます。

延命寺遺跡　木簡

延命寺遺跡　木製祭祀具出土状況

延命寺遺跡　木製祭祀具

延命寺遺跡　奈良時代の整地層をもつ建物

■延命寺遺跡

調査原因：国道253号上越三和道路建設（平成15年度）

所在地：上越市大字下野田字延命寺

高田平野のほぼ中央、飯田川左岸の沖積地に立地します。標高は約9mです。

飛鳥時代・奈良時代の集落を検出しました。

飛鳥時代の建物には溝に囲まれているものがありますが、これは低地での防水対策と考えられます。遺物には土師器・須恵器・紡錘車・砥石・火鑽臼・火鑽杵・耳環などがあります。耳環は有力者の持ち物なので、この村が上越地方でも有力な集落だったと推定できます。

奈良時代では、盛土による整地層を伴う建物が見つかりました。盛土は炭や焼け土を5cm程度の厚さに積み上げたものです。この建物の柱には沈下を防ぐための礎盤もあることから、防水・軟弱地盤対策が施されていたことがわかります。柱穴からは地鎮のために入れたと思われる銅製の鈴が出土しました。

奈良時代の遺物には土器のほか多くの木製品があります。木製品は木簡・祭祀具のほか、琴柱、火鑽臼・火鑽杵・櫛・糸巻・農具などがあります。木簡には天平8（736）年の年号や、「野田村」と書かれたものがあり、現在の地名「下野田」「上野田」との関連が推測されます。また、土地の1年間の耕作権を売買した記録や暦が書かれた木簡、帯金具など、当時の役所（官衙）に関わる遺物があります。

延命寺遺跡は、飛鳥時代には地域の有力者の住む集落であり、続く奈良時代になると地方役人が行政の一端を担う場になったのでしょう。

■リレー講演会

会　　場

新潟県埋蔵文化財センター

（新潟市秋葉区金津93－1）

要参加申込（各回定員80名／先着順）

回	日　程	タ　イ　ト　ル	講　　師
7	11月18日(日)	「高田平野の古代社会 －延命寺遺跡を中心に－」	山崎　忠良 （新潟県教育庁文化行政課）
8	12月9日(日)	「考古資料から考える 大宝二年の越中国四郡分割」	春日　真実 （財新潟県埋蔵文化財調査事業団）

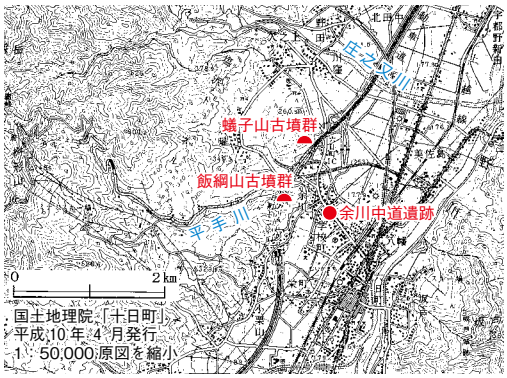
【申込先】（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
電　話：0250－25－3981　ＦＡＸ：0250－25－3986
メール：niigata@maibun.net

県内の遺跡・遺物78

蟻子山古墳群（昭和47年６月県指定）

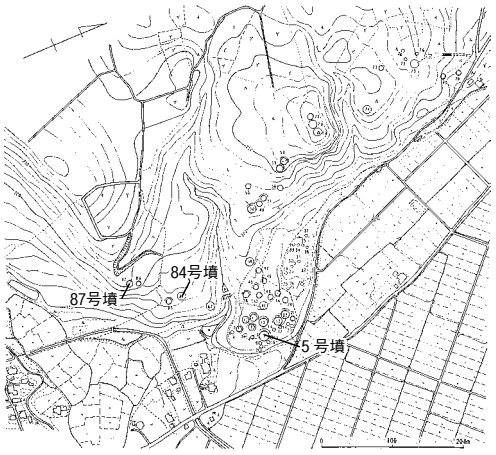
（所在地：南魚沼市余川字蟻子山）

蟻子山古墳群は、庄之又川の扇状地内にある独立丘陵の東斜面に位置します。西には魚沼丘陵、東には北流する魚野川を望むことができます。大小の円墳91基が標高約260～150mの斜面に５群に分かれて分布しており、最も密集度の高い第３群は斜面南端部の平坦地に立地します。なお、平手川を挟んで南へ１kmのところには飯綱山古墳群（県指定）があります。



蟻子山古墳群と古墳時代の遺跡分布図

蟻子山古墳群　遠景



蟻子山古墳群
（『新潟県文化財調査年報　第15　南魚沼』から加筆・転載）

県内では、古墳時代前期の古墳は海岸沿いに造られましたが、中期になると（５世紀前半）、内陸に造られるようになりました。魚沼地方はその代表例で、中でも飯綱山古墳群の主墳大塚古墳は葺石をもつ直径39mの大円墳で、墳頂部に壺形埴輪が立ち並ぶ古墳時代中期の典型的な姿を有します。副葬品も多彩で、武具・鏡・環鈴・須恵器𤭯などがあります。古墳の姿や副葬品から、被葬者は後の東山道を通って関東方面から北上してきた征服者的な人物だったと想像されます。このほか、蟻子山古墳群の南東約１kmの低地部で発見された同時代の余川中道遺跡では集落や水田が検出されており、古墳群を造営した集団の集落であると考えられています。

さて、蟻子山古墳群の分布状況については、昭和36年の立教大学の調査で91基の円墳が確認されたほか、昭和49年の南魚沼郡文化財総合調査において現状確認が行われました。本古墳群最大規模の大塚（５号墳）は第３群に属し、直径29.５m、高さ4.5m、墳丘を取り巻く周溝の幅は５mを測ります。内部主体は、古墳群中２位の規模をもつ84号墳（推定）では扁平石で二重に構築した竪穴式石室、87号墳では粘土槨でした。古墳群の遺物には鏡・直刀・勾玉・管玉・ガラス小玉・須恵器𤭯などがあり、須恵器𤭯は５世紀後半の大阪府陶邑古窯産です。

竪穴式石室や粘土槨、５世紀代の須恵器の存在は、横穴式石室を主体とする後期群集墳に先行するものがあることを示しており、飯綱山古墳群とともに魚沼地方の古墳文化を考える上で重要な位置を占めています。

参考資料：『新潟県文化財調査年報　第15　南魚沼』［新潟県教育委員会1977］、『図説日本の歴史　15　図説　新潟県の歴史』［小村弋ほか編1998］、『新潟県史　資料編１　原始・古代一　考古編』［新潟県1983］

資料提供：南魚沼市

埋文にいがた No.80

発行　㈶新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地１
ＴＥＬ　（0250）25－3981
ＦＡＸ　（0250）25－3986
E-mail：niigata@maibun.net
ＵＲＬ：http://www.maibun.net
印　刷　株式会社ハイングラフ